

別紙

広島ガス株式会社 廿日市工場温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

広島ガス株式会社 廿日市工場

(2) 事業所の所在地

広島県廿日市市木材港南12番20号

(3) 業種

ガス製造工場

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成25(2013)年度を基準年度とし、平成27(2015)年度から平成30(2018)年度までの4年間とする。

3 計画の基本的な方向

環境方針

広島ガス株式会社 廿日市工場・備後工場・東広島製造所(以下「当工場」という)は、地球環境にやさしい天然ガスを主原料にクリーンなエネルギー都市ガスを製造し、さらに廿日市工場においては都市ガスを使用した発電及び送電を行っており、この都市ガスの安定供給及び発電を通して地球環境保全へ貢献している。

当工場は、環境負荷も低く設計されており、都市ガスの製造工程における燃料と電力使用量の少ない操業、発電工程における排熱の有効利用などにより効率的なエネルギーの利用を行っているが、さらなる環境保全への貢献を図るため、広島ガスグループ環境基本理念を踏まえ、環境行動指針を次のように定める。

環境行動指針

当工場では ISO14001 の要求項目に沿って環境目的・目標・プログラムを定め、環境保全活動を推進し、定期的な見直しを行うとともに継続的改善を図る。

(1) 以下の項目について積極的に活動し、環境保全と汚染予防に努める。

- ①都市ガスの品質及び安定供給を確保する。
- ②省資源、省エネルギーを推進し、環境負荷の低減に努める。
- ③地域環境保全に貢献する。

(2) 当工場の環境側面に関係して適用可能な法的要求事項及び当工場が同意するその他の要求事項を順守する。

この環境方針は、当工場で働く人又は当工場のために働く人すべての人に周知するとともに、要求に応じて社内外へ公開する。

平成 27 年 7 月 6 日
広島ガス株式会社
廿日市工場長

西尾信宏

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度 平成25年度	直近年度 平成26年度
二酸化炭素	/	16,900	16,300

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度 平成 年度	直近年度 平成 年度
二酸化炭素			

【その他温室効果ガス】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度 平成25年度	直近年度 平成26年度
メタン	/	966	861
一酸化二窒素			
HFC PFC SF ₆			

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)	削減目標		目標年度 (平成 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂				
非エネルギー起源CO ₂				
メタン				
一酸化二窒素				
フロン類				
温室効果ガス 実排出量総計				
温室効果ガス みなし排出量				
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標： 製造ガス量 (千m³N)

単位：排出量(t-CO₂)，原単位置量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成25年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成30年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	16,900	413,235	0.04090	▲16.8	21,600	452,213	0.04777
非エネルギー起源CO ₂							
メタン	966	413,235	0.00234	46.2	570	452,213	0.00126
一酸化二窒素							
フロン類							
総排出量	17,866	413,235	0.04323	▲13.4	22,170	452,213	0.04903
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)	4,257	413,235	0.01030	▲89.7	8,835	452,213	0.01954
目標設定の考え方	次年度より廿日市工場天然ガスコージェネレーションシステムを外部環境を鑑み、24時間運転からDSS運転に切り替えることにより、目標年度の原単位が基準年より大きくなりますが、原単位の低減に努力いたします。						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減		・温室効果の少ない燃料の使用（製造ガス→BOG）
2	電気資料量の削減		・LED照明の導入 ・管理棟エレベーター夜間電源OFF

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること。

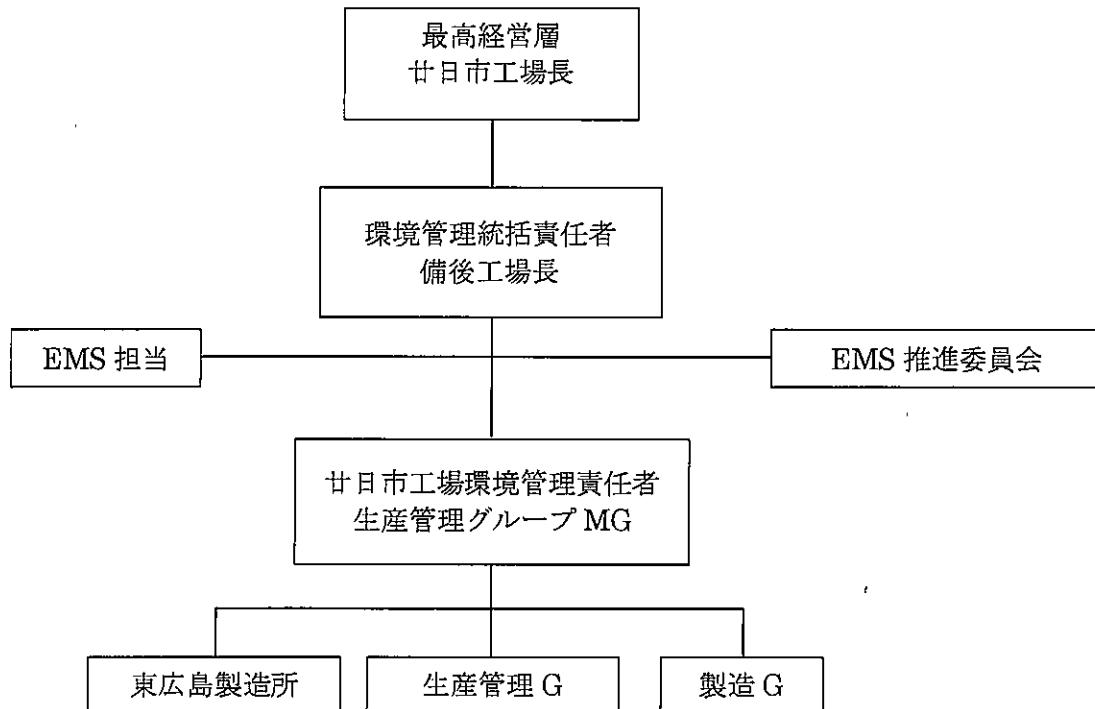
○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	環境に配慮した設備の有効利用、改善等の推進		・随時、省エネにつながる活動を発案、検討、実施
2	廃棄物の削減		・マイ箸の使用 ・ゴミの分別化 ・再資源化率の向上 ・裏紙利用の徹底
3	グリーン購入の推進		・環境への負荷が少ない製品の調達
4	地球環境保全への貢献		・工場見学者に対する環境教育の実施 ・事業所周辺の清掃活動

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

EMS担当を中心として、温室効果ガス削減計画の取組状況の把握・点検及び問題点の検討を行い、EMS推進委員会（6ヵ月に1回開催）において定期的に評価・見直しを行い、継続的な改善を図る。

(3) 計画書等の公表

事業所に備え付け、閲覧可能にする。